

必ず読んでください

BCG予防接種についての説明書

BCG接種は結核の予防接種です

1. 病気について

結核菌の感染で起こります。わが国の結核患者はかなり減少しましたが、まだ2万人前後の患者が毎年発生しており、大人から子どもへ感染することも少なくありません。また、結核に対する抵抗力はお母さんからもらうことができないので、生まれたばかりの赤ちゃんもかかる心配があります。乳幼児は結核に対する抵抗力が弱いので、全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残す可能性があります。

2. ワクチンについて

BCGは牛型結核菌を弱毒化してつくったワクチンです。BCGの接種方法は、管針法といってスタンプ方式で上腕の2か所に押しつけて接種します。接種したところは、日陰で乾燥させてください。10分程度で乾きます。

接種後10日頃に接種局所に赤いポツポツができて、一部に小さいうみがでることがあります。この反応は、接種後4週間頃に最も強くなりますが、その後は、かさぶたができて接種後3か月までにはなおり、小さな傷あとが残るだけになります。これは異常反応ではなく、BCG接種により抵抗力（免疫）がついた証拠です。包帯をしたり、バンソウコウをはったりしないで、そのまま清潔に保ってください。自然になおります。ただし、接種後3か月を過ぎても接種のあとがジクジクしているようなときは医師にご相談ください。

副反応としては、接種をした側のわきの下のリンパ節がまれに腫れることがあります。放置して様子を見てかまいませんが、ただれたり、大きく腫れたり、化膿して自然にやぶれてうみが出ることがあります。その場合には医師にご相談ください。

【コッホ現象】

お子さんが結核にかかったことがある場合に、接種後10日以内に接種局所の発赤・腫脹及び接種局所の化膿等を経験し、通常2週間から4週間後に消炎、瘢痕化し、治癒する一連の反応が起こることがあります。これを「コッホ現象」といいます。コッホ現象と思われる反応がお子さんに見られた場合は、接種を受けた医療機関を受診してください。この場合、お子さんに結核をうつした可能性のあるご家族の方々も医療機関の受診が必要になります。

3. 接種回数

生後3か月から1歳までに1回接種

4. 以下のことに注意してください

- ① 予防接種の必要性や副反応についてよく理解しましょう。分からないことは接種を受ける前に質問しましょう。
- ② 接種に連れていく予定にしているも、体調が悪く思ったら、やめましょう。
- ③ 子どもの日頃の状態を知っている保護者の方が連れていきましょう。また、卵などの食品や、薬などにアレルギーがないか日頃からよく注意をして見ておきましょう。
- ④ 予診票はお医者さんへの大切な情報です。責任を持って記入するようにしましょう。
- ⑤ 母子健康手帳は必ず持っていきましょう。母子健康手帳がないと接種できません。
- ⑥ 接種後は、30分間は接種場所で子どもさんの全身状態を観察しましょう。

5. ワクチンについて予防接種による健康被害救済制度について

定期接種によって引き起こされた副反応により、生活に支障が出るような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。

給付申請の必要が生じた場合には、大田市健康増進課へご連絡ください。